

【2021年度 地区委員アンケート集計結果】

1. 最近2年間に、学校医または養護教諭から、成長障害児童の紹介はありましたか？

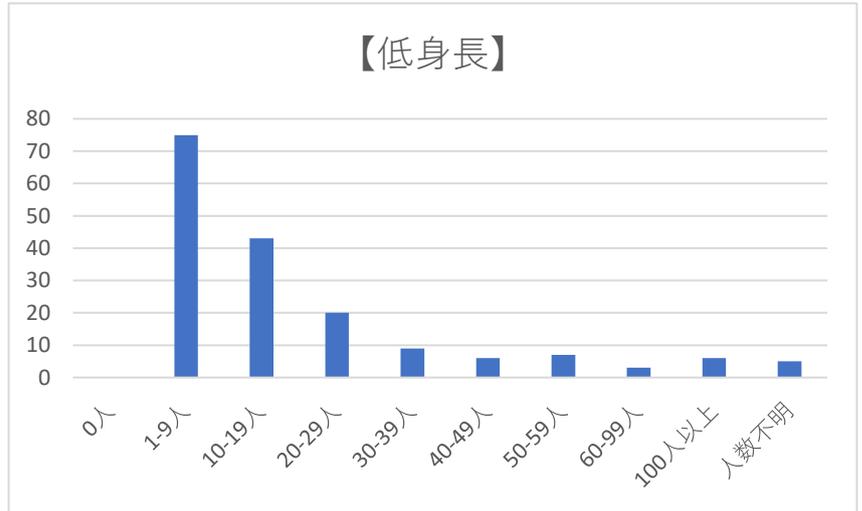
あり	174
なし	46
回答数	220

2. 1でありと答えた方にお伺いします。その内容について、教えてください。

(実際に-2SD以下でなくてもかまいません)

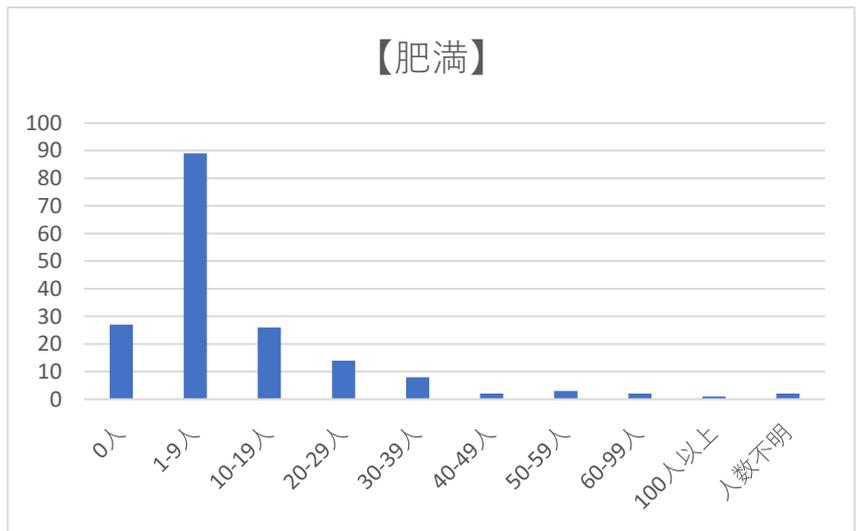
【低身長】

0人	0
1-9人	75
10-19人	43
20-29人	20
30-39人	9
40-49人	6
50-59人	7
60-99人	3
100人以上	6
人数不明	5



【肥満】

0人	27
1-9人	89
10-19人	26
20-29人	14
30-39人	8
40-49人	2
50-59人	3
60-99人	2
100人以上	1
人数不明	2



<その他の内容>

思春期早発症（疑い含む）	277
身長促進（過成長・成長率促進）	159
やせ	70
成長率低下	21
思春期異常	10
甲状腺機能亢進症	10
甲状腺腫	5

血尿・尿蛋白	5
糖尿病	5
摂食障害	3
SGA	3
GHD	3
成長障害	1

2021年11月1日

成長科学協会の小児疾患地区委員へのアンケート

2016年4月30日に文部科学省は、「座高の検査を必須項目から削除したことに伴い、児童生徒等の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用することが重要となること」という通知を出しました。それ以後、日本学校保健会で作成した「成長曲線作成プログラム」が全国の国公私立小・中・高校に配布されて、成長障害のスクリーニングが開始されました。スクリーニングで、受診が必要と学校医に判断された児童・生徒は、専門医への受診を勧告することになっております。

成長科学協会では、全国の成長障害治療を行っている専門医の先生方に地区委員を委嘱しております。日本学校保健会の成長曲線普及推進委員会では、機会ある毎に専門医として、日本小児内分泌学会の評議員と成長科学協会の小児疾患の地区委員を挙げています。今回、地区委員の任期更新に伴って、小児疾患の地区委員に、学校医または養護教諭からの成長障害児の紹介があったかどうかのアンケートを回答してもらいました。

小児疾患の地区委員の約80%の220人が回答し、うち174人(79%)が、学校医または養護教諭からの成長障害児童・生徒の紹介があったと答えています。その内訳は、低身長の1~9人の紹介が75名、10~19名の紹介が43名、20~29名の紹介が20名、100名以上の紹介も6名いました。肥満は、1~9人の紹介が89名、10~19人の紹介が26名、20~29人の紹介が14名、100人以上の紹介も1名いました。その他、思春期早発症(疑いも含む)277人、身長促進(過成長・成長率促進)159人、やせ70人など、多くの児童・生徒が地区委員に紹介されてきている実態が明らかになりました。このことは、文部科学省の「成長曲線による健康の評価」のプロジェクトに対し、成長科学協会の地区委員の先生方が、専門医として機能していることを示していると考えられます。

公益財団法人 成長科学協会
理事長 田中 敏章